Glowing Flower
- Glowingr Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.
For ADULT only.

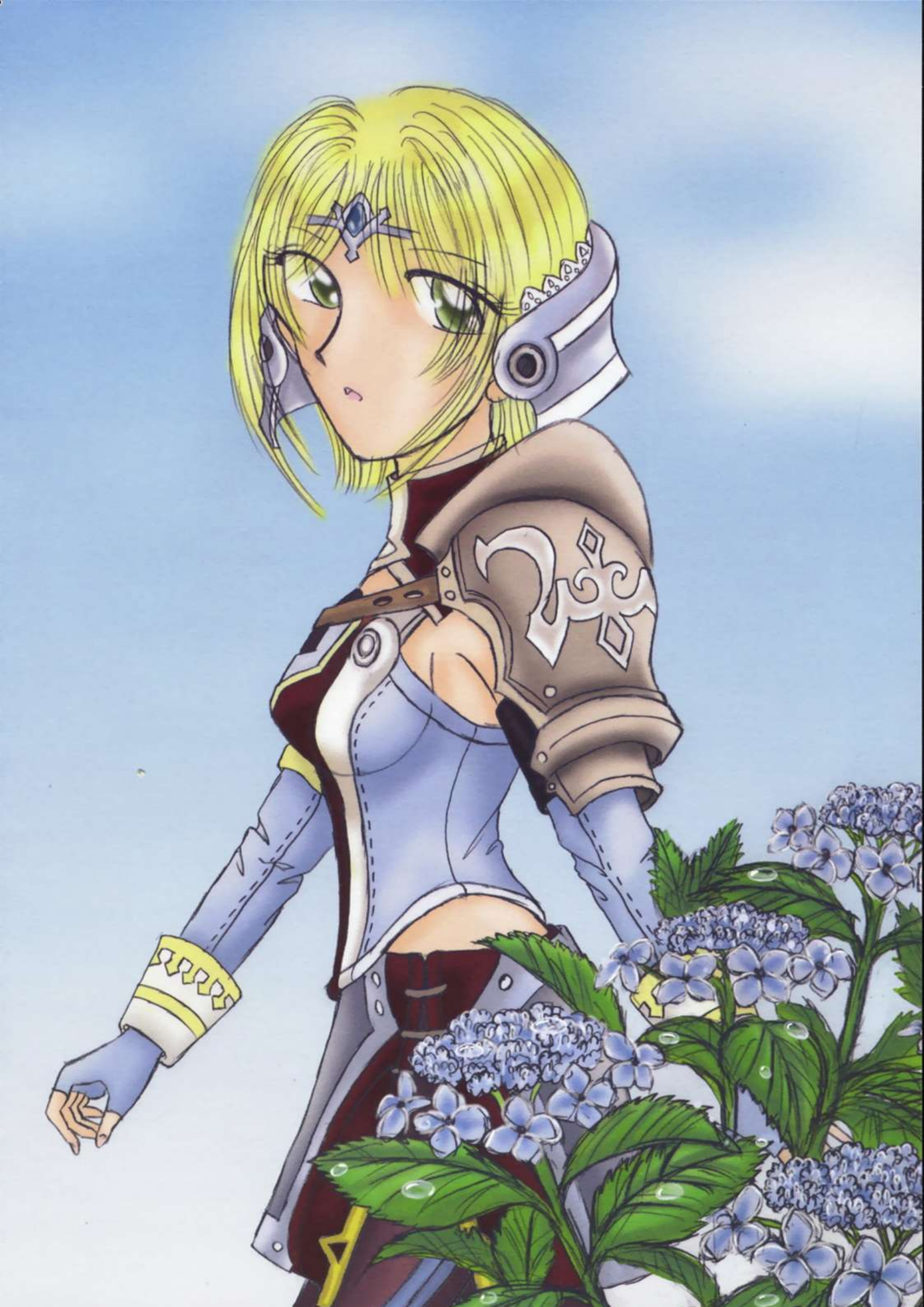
Glowing Flower
- Glowingr Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

- Lily of the valley -

レナスといったらやっぱりスズラン。
ホントはスズランの園とかにしたかったんですが無理でした…;;
光のイメージとかがちょっとアリーシャ絵と似ちゃったかなとも反省・・・

- Gerbera -

華やかで可愛い花といったらガーベラかな
ということで。なんか少女漫画な感じです。
今回の扉絵類はあんましえろ度は重視して
ない…つもりだったんですが…
やりたかったコンセプトはできました（笑）

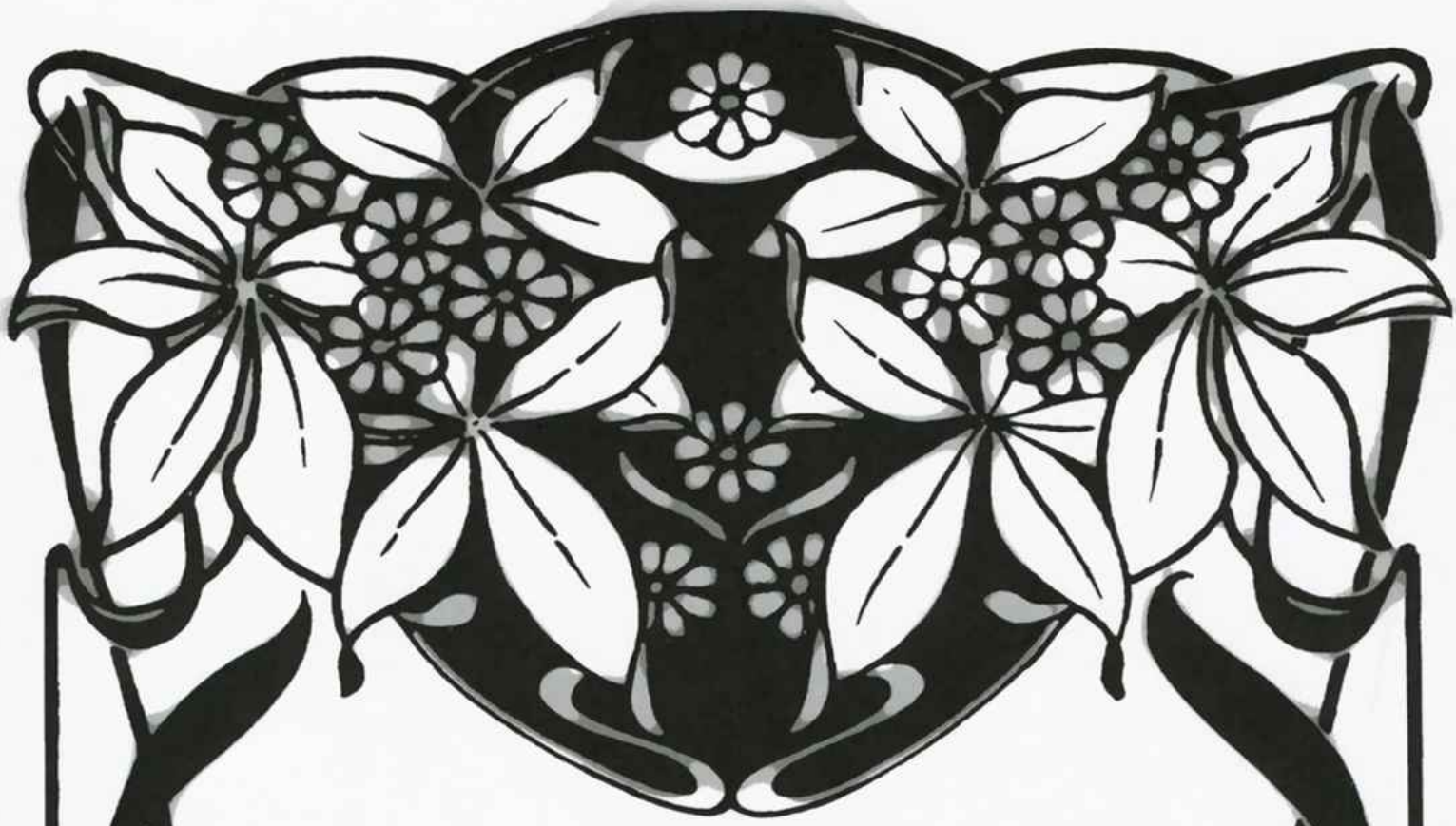


Guest illustration

-Hydrangea-

エインフェリアのクレセントとアジサイ。
雨の中に咲くアジサイよりも、彼女には雨上がりのアジサイの方が似合うと思います。

- Amaryllis -



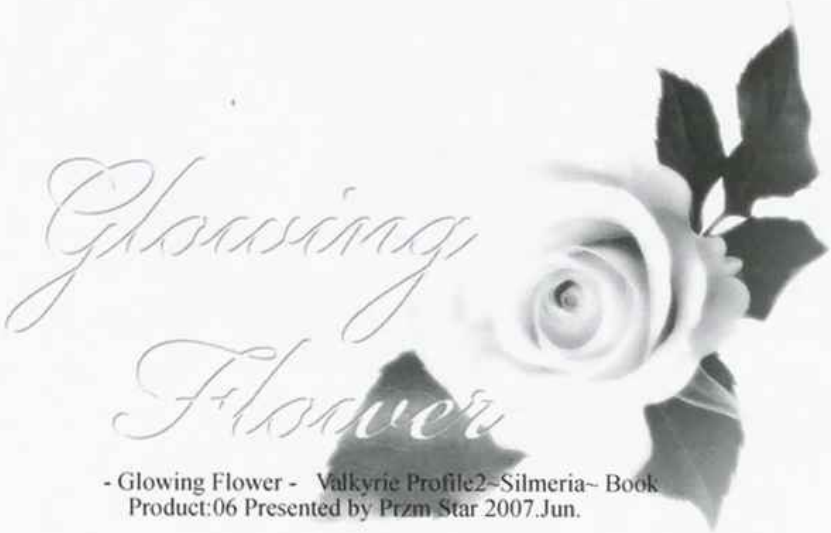
はぢめましての方もいつも見捨てずに居て下さる皆様もコンニチワ、Przm Starの光星です。
なんとまだVP2やってます。ゲームもやってます。LV.99行くぞホント・・・・
今回もまあ何の反省もなく最初からクライマックスだぜーという状態ではありますが：：
日にちはあるんですがちょっちお仕事の方が..ありがたい事ではありますが：

今回はカラーページをイラスト集風にレイアウトしてみました。印刷費の無駄遣いゆーなto内輪。
つか最初に作ったテンプレで入力ミスったらしく、カラーとかのロゴの大半が『glowingr』になってま....あーあ。

そんな感じではありますが：：こだわりと愛情だけは捨てずにがんばりたいとおもいます〜〜...では本文で！

2007/06/某日　光星。

GLOWING FLOWER
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.



- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

再生。
どうしたのかしら…体が重い…？
はあ
あとは俺たちがやるからよ
疲れてんなら下がってな
は、はい…

じゃーな、アリーシャ
ちゃんと寝とけよ
パタン
本当に――
どうしたのかしら
私――
またルーファスや
仲間達(エインフェリア)に迷惑ばかり
かけてしまって…
じぃ…

最近Hしてないからじゃないの？
な、何をおっしゃるんですか!!!
あらだってそうでしょ？♡
養母さん…またそーゆー事を…
おら～男性陣(ヤロー共)は散った散った!!!
そーだ、今から夜バイかけちゃえ
だ、ダメですっ！今日はルーファスに頼りっぱなしだったのに…
ずっとそういう事ばかり考えている訳ではありません

難儀な体質。

じゃ、じょーがないわね

ぴく…

ええっ!?

あッ

ちょっ…勝手に人の手を動かさないで…

あっ…!!

手伝ってあげるわよ～自分でするの♥

あ、ホントすごく熱い♥

やっ あっ ダメですぅ…っ

しゅる…

ぴくん

だって相手が
ダメなら自分でやる
しかないでしょ？

ピク

でもでも
こんな事…

はぁ…

はっ…
んぅっ♥

クリッ

あっ

ぷにぷに

やっ…

はぁ…

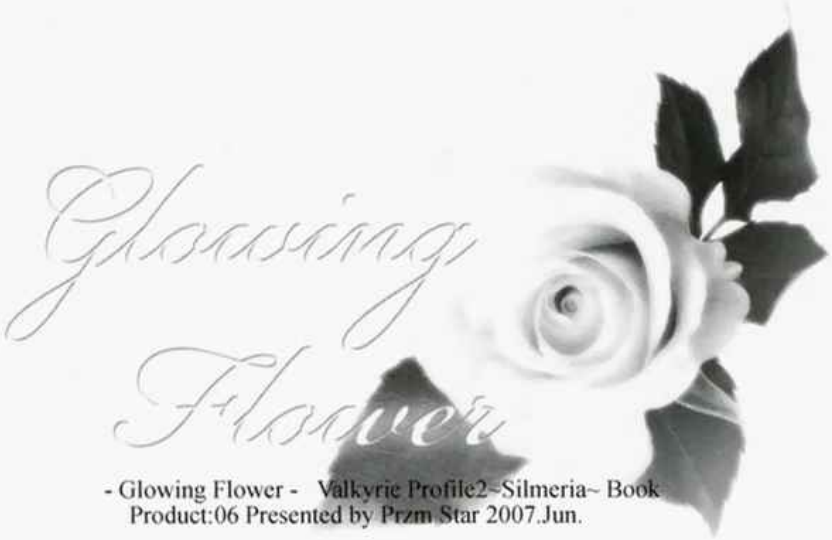
ダメぇっ…
そこ…はっ

あ…

あっ♡
それとも他の男(ユイン・フェリア)でも実態化させて慰めてもらっとく〜？
そ、それは…っダメ…ですぅ…
あっ
はあ
えっ…
ちょっ…そんな…!!
ちょっと待ってください…ああっっ
じゃ、この辺でガマンね♡
何が都合良くそこら辺にあった都合の良いモノ。

ひんっ…!!!
やっ…もぉ…動かさないでぇ
じ、自分の指なのにこんなぁ…♡
やぁ…っっ
ああっっ!!!!

ただの
風邪でした。
あのな
きゃー
きゃー



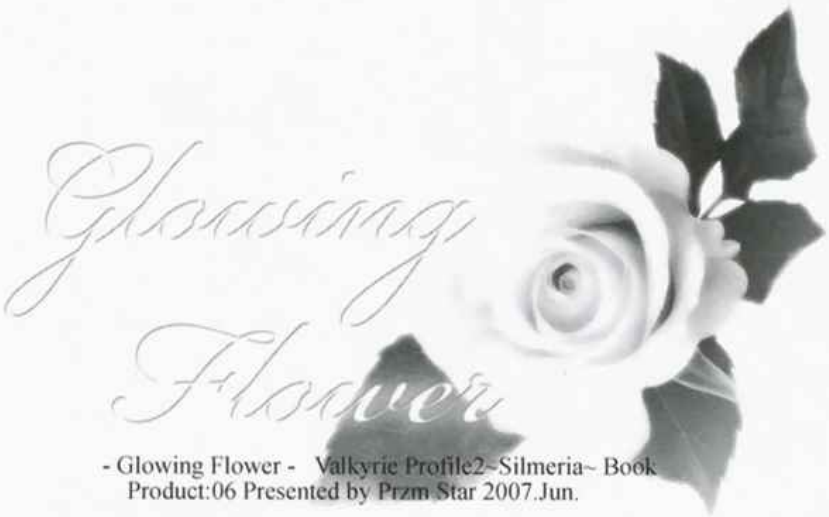
- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

TRASH WORKS

今回も何の反省もなくそこらへんに転がってた
日々のラクガキなどを集めてみました。
いやなにげに印刷になって戻ってきた時一番
自分が見るPてこのコーナーなんですがね・・・

そして何の反省もなくアリーシャばっかり
描いてますね・・・・ハイ。

無理な左右反転は
つらいですよ・・・
夢なポーズ。
今だにあんま構造つかんでないっスね。
と思ったらちょっとだけ
レオーネもあった。
これはいつぞのカット用に
描いたありーしゃー
大分初期ですな。
・・・なぜ
ネコ耳。



- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

care

昏き妄執の館。

「ライトニングボルト！」
呪文と共に雷光が空間を走りサテュロスを焼き尽くす。
「はあっ！」
そしてクレセントの剣が一閃し、もう一体のサテュロスを滅ぼしていた。
「ふう・・・」
ファーラントは辺りを見回すが他には魔物の気配は消えていた。
「これで最後みたいだな・・・」
「ん・・・そうみたいね」
クレセントは剣の血を払い鞘に収める。心なしかその声に張りがない。
「どうかした？」
「ん・・ちょっと」
苦い顔をしたクレセントの右肩に血が滲んでいるのに気が付く。
先程の戦闘で傷ついたのだろう。
「上手く避けたと思ったんだけどね、あ、平気だからこれくらい」
「平気じゃないだろう、ちゃんと見せて」
灯りのある所に連れて行き傷口を調べる。深い傷ではないが放っておいてよい怪我ではない。
痛いはずなのにそう言わないのは気丈な性格だからなのだろうが。
程度と言うものがある。
ファーラントは呆れてため息を吐く。
「まったく・・・治療していいよな」
そういうとクレセントのショルダーガードのベルトを外そうとする。
いきなり手をかけられてクレセントは驚いてファーラントの手を掴む。
「な・・・ちょっとまって何で取るの？」
「何って、手当するのに邪魔だから」
少しむっとした口振りでファーラントは言葉を返す。
こんな怪我をした時でも自分を頼ろうとしないクレセントに少し憤っていた。
「手当って、キュアブラムスかければいいでしょ」
ファーラントほどの魔術師なら一瞬で治せる怪我のはずである。
が、ファーラントは
「あ、俺覚えてないから」
しれっとのたまいクレセントの手をどかしてガードを外してしまった。
「ウソっまだレベル19ですとは言わせないんだからっ」
クレセントはファーラントを押しのけようとしたがガッツリと掴まれ動けなくなってしまった。
「動かないで」
クレセントの抗議と抵抗はさっくりとスルーし、ファーラントはクレセントの傷口に顔を寄せる。
「ちょっ・・・なにするの」
「まず消毒しないとな」
そういうと傷口に唇を付けた。
「つ・・・」
傷に直に触れられて痛みが走りクレセントは軽く呻いた。
「痛い？」
「くっ・・・ん」

「あんまり辛かったら止めるから」
そう言いながらもファーラントは流れ出ている血をゆっくりと舐め取っていく。
傷に触られる痛みと肌をなぞってゆく舌の感触。ぴちゃりという液体が舌を潤していく音。
こんな時だというのにいつもの睦み合いがクレセントの頭をよぎる。
そんな気はまったくない筈なのに、口から出る声に甘い物が混じりそうになる。
「ふぅ・・・ん」
それをこらえるのに必死になっていると、ファーラントの唇が傷口から離れた。
「あ・・・」
クレセントは我に返ってファーラントを思わず見上げた。
「出血は止まってるみたいだから後は包帯巻いておけば大丈夫・・・ってどうしたの?」
軽く笑ったファーラントと目が合ってしまった。
クレセントの若草色の瞳が微かに潤んでいるのにファーラントは気が付く。
「やっぱり痛かった?」
「っ・・・痛い」決まってるでしょ!こんなの・・・」
今のを見透かされたような気がして、顔が熱くなる。
「ごめん、もうちょっとで終わるから」
むくれた顔のクレセントにファーラントは苦笑いを浮かべると包帯を取り出し傷口に巻いていく。
「よしこれで手当は終わり・・と」
ファーラントが包帯を結び終わる。馴れているのかその手際は鮮やかだった。

「ん・・・ありがと・・・」
クレセントは俯いてそういうとくるりとファーラントに背中を向けた。
魔法で治療しないのは明らかにファーラントの趣味だと思うが、手当してくれたのは間違いないのに怒ってしまったのが気まずかった。
そして外されたショルダーガードを拾おうとした時、ファーラントに後ろから抱き寄せられた。
「なっ・・・ちょっと・・・」
「まだ終わってないから」
肩越しに見たファーラントはいつもの笑顔だが微妙に黒いモノが滲んでいた。
「今、終わったっていったでしょっ」
こういう時はろくな目に遭わないのが体験済みなのでクレセントは振り解こうとする。
だが戦闘力ではクレセントに部があるが純粋な腕力はファーラントが上だった。
「手当は終わったって言っただけだけど?」
いつもの穏やかな口ぶりだがこちらも笑顔と共に微妙に黒い。
「じゃあもう終わったんでしょっ」
「いや、他に怪我してないか調べないと・・・ね?」
「なにが『ね?』ようっ、ていうか後ろから調べるのがありえないでしょうっ」
「それは前からだと殴られそうだから」
「当然でしょっ」
「打ち身とかあるかもしれないから触って確かめないとな」
「平気だから離してようっ」
抗議をしながらクレセントはもがいていたが、ファーラントはするり、とその鎧の隙間から脇に手を入れた。

「あっ・・・ちょっ・・やめっ」
柔らかい乳房を進むとその指先に乳首が触れた。
「んっ・・」
すでに固く突起し始めその存在を主張している。
くすりとファーラントが笑みを漏らす。
「なんか固くなってるけどどうして？」
「つ・・・知らないっ」
クレセント自身が一番解っている事だが言える訳はない。
「もしかしてさっき舐められて感じてた？」
「ちがっ・・・ぅんっ」
否定しようとしたが、指先で突起を引っ掻かれると反応してしまう。
「そう？こんなにココ固くなってるけど」
ファーラントがさらに手を進めてやわやわと乳房を揉むと
「やぁ・・・あ、あんっ」
手のひらに触れている先端がさらに固くなっている。それを指の間に軽く挟むとクレセントは身を捩り
「はぁ・・・うん・・・」
切ない吐息を漏らす。
胸への愛撫を続けながらファーラントの片方の手は身体の側面をなぞっていく。
脇腹から下腹部にまわって服の中に差し込む。
「ちょっ・・・やっダメっ」
クレセントはファーラントの腕を掴み止めようとするが、そんな事には構わずに手は奥へと進み下着の中に入る。
柔らかい陰毛を撫で、指を花裂に潜り込ませる。花裂の中はすっかり潤っていて指に愛液がからみついた。
「もうこんなに濡れてるんだ」
「ちが・・・や・・・」
「何が違うの？」
愛液にまみれた指で花芽を軽く押す。ビクリとクレセントの身体が波打つ。
「んっあんっ」
「胸だけじゃなくてこっちも大きくなってるみたいだけど」
わざとクレセントの耳元で囁くと見る間に耳朶が朱に染まっていく。
「んっ・・・やっ」
「胸しか触ってないのにこんなに濡らして・・・エッチだな」
「も・・・ばかぁっ・・・」
普段だったらこんな事を言ったら最期、間違いなく平手が飛んでくるのだが肩のケガのせいか、クレセントはファーラントの言われるままになっている。
後が怖いなとも思いながら、こんな機会もめったにないのでファーラントは愛撫を続ける。
「いつもこれくらい素直だと可愛いんだけど」
花芽を弄りながら、耳を舌で舐る。
「ひあっ・・・やぁっん・・あ・・・」
何度も敏感な部分を弄られクレセントは声をあげる。
刺激される度に花陰がどくどくと動いて愛液が更に溢れるのが自分で解る。
「はぁ・・・も・・・やめて・・・」
これ以上されたら欲しくなってしまうところまで来てる。
「どうして？」
クレセントに応えながらもファーラントは手を止めない。
「っあ・・・こんな所でっ・・んっ・誰か来たら・・・」
「困る？」
そして不意に蜜壷に指を沈めた。クレセントの身体が跳ねる。
「ふあっ・・・ああんっ・・・！」

「中もとろけそうになってるけどホントにやめていいの？」
中の指を動かしながら耳元で囁く。
「はぁっ・・・うんっ・・・やっやめ・・・」
「まだして欲しいってここは言ってるけどな」
くすり、と笑うと膣壁を擦る。それで高まっていた快感が登りあがる。
「はっだめっ・・も・・・いっちゃ・・・あああんっ」
絶頂を迎え身体が痙攣し、中に入っているファーラントの指を締め付けた。
「はぁ・・・あ・・・」
波が引き、クレセントは気が抜けてファーラントにもたれ掛かる。
蜜壷はまだひくひくと動いて中の指を締め付けていたが、ファーラントは指をゆっくりと引き抜く。
「ふっ・・んぅ」
その動きにも感じてしまい声が洩れる。
「見て、こんなに濡れてる」
ファーラントは愛液にまみれた指をクレセントの目の前に持って行く。
クレセントはその指を口に含んだ。そして愛液を舐め取ってファーラントの指を吸う。
「ん・・ふぅ・・・」
指がファーラントの男根だと思って舌を動かす。精液ではなく自分の蜜の味がするのが物足りない。
一度開かれてしまった身体はもう指だけでは足りなくて疼き続けている。
ファーラントの術中に上手く乗せられた様だけれどそれはどうでも良くなっていた。
「してもいい？」
だがそのまま乗せられるのは悔しいので後ろからそっと聞いてきたファーラントの指に歯を立ててから指を離した。
「痛・・・」
そしてファーラントに向き直り、軽く睨め付けてから唇を奪う。
「最初からそのつもりだったくせに・・・」
唇を離した後そう言って笑うとファーラントが赤くなったのでこれで一応五分と言うことにしておこうとクレセントは思う事にした。
クレセントの鎧をファーラントが外していく。
鎧と言っても軽装なので手間が掛かるわけではないがもどかしく感じる。
上の鎧が外されるとふるりとクレセントの胸が解き放たれ揺れる。
豊かな白い胸を薄桃色の乳首が彩っている光景にいつも見ているが思わず息を呑む。
すぐにでも揉みしだき、思う存分貪りたい衝動に駆られるが、クレセントは全部脱がされてから触られるのを好むので、目の前で揺れる白い誘惑と戦いながら下を脱がした。
「すごい濡れてるな・・・」
下着にも愛液が染み込み、薄い布の向こう側を透けさせている。
淫靡な眺めにまじまじと見いってしまう。
「やぁ・・・脱がして」
両脇に手を掛けするりと脱がすと愛液がつうと糸を引いていく。
たっぷりと愛液に濡れた秘部が顕わになる。其処を包む陰毛も濡れ光っていた。
すぐに挿入出来そうだが、余裕のあるうちは他の事を愉しみたかった。

上着を脱いでクレセントに覆い被さる。
「クレセント」
「あ・・・」
まじまじと見つめられクレセントの顔に朱が刺す。何度も繰り返している事なのに未だに気恥ずかしい。
ファーラントその頬を撫でると唇を重ねる。
クレセントもそれに応え、舌を絡め合い求めあう。
ファーラントの唇はクレセントの首筋へと移る。
「んっ・・・」
首筋から胸元へと口吻を落とし、舌を這わせて行く。
そして乳房の先端へと辿り着く。
既に固く屹立した乳首を更に立たせる様に舐め上げる。
「あん・・・」
甘いクレセントの声が頭上から聞こえる。
片方の乳房を柔らかさを確かめる様に揉みながら乳首を口に含み軽く吸う。
そして吸い立てながら先端を舌で弄ぶ。
「んっ・・・あ・・・やっ・・・ん」
指での愛撫では感じられない快感にクレセントが悶えて仰け反る。
もう片方の乳首は指で挟み潰したり、擦ったりと刺激する。
「はっあ・・んっ・・・ぅ・・」
一通り乳房を堪能すると、引き締まった腹部へと降り、更にその下に進む。
「足もうちょっと開いて」
「うん・・・」
クレセントが膝を立て、足を開くとその間に顔を埋める。
指で花唇を開き花芽を顕わにし、舌で突いた。
「ひあっあっん・・・」
嬌声と共にクレセントの身体が波打つ。
「やっぱりここが一番弱いな」
そして今度は舐め上げ、吸い立てた。愛液が淫らに水音を立てる。
「はっあ・・・やあっん・・・そこダメっ・・・」
「そんなにここが感じる?」
「ふあっやあっ」
爪先で引っ掻くだけでもクレセントは乱れていた。
荒い息を吐き涙目でファーラントに訴える。
「や・・・もう・・して・・・」
見ると入り口はひくひくと震えて、挿入を待ちかねていた。
「こっちもそろそろ限界だからな」
ファーラントはズボンを下げ男根を取り出す。
自分の肉棒も既に勃起し先走りを零していた。
亀頭を入り口にあてがうと挿入する。
「あっあああんっ」
たっぷりと濡れていたせいで何の抵抗もなく入った。
中は熱くファーラントの男根を包み込む。
「ふぁ・・・あん・・んっ入ってる・・・」
快感のせいかクレセントの肌が粟立つ。
「動いていい?」
「うん・・・」
ファーラントは腰をゆっくりと前後に動かし始める。
「あっ・・・あ・・・んっ・・・・」
亀頭が膣壁を撫でるような刺激が面はゆい。
「や・・・もっと動かして・・・」
「このくらい?」
一端男根を抜くと一気に突き入れ律動を早める。
「あっんっそっ・・・イイっ・・あんっもっと・・・」

クレセントの足をかかえ更に激しくファーラントは腰を打ち出す。
「はっあぅあっあっあっ」
腰の動きに合わせ声が漏れる。膣壁はもっと快楽を得ようとファーラントの男根を締め付ける。
「あっあ・・・ファーラントっ・・・気持ちいい・・・はぁ・・・ああんっ」
「っ・・こっちもすごくイイ・・・クレセント・・」
男根に伝わる刺激を受け射精感がこみ上げて来、強く打ち付ける。
「はあっ・・あ.あんっ・・・あっ・・・ダメ・・」
「っ・・・クレセントっ」
「ファーラントが先に達してクレセントの膣内に精を注ぐ。
「あ・・・イク・・・やあ・・・あああっんっ！」
ドクドクと中に注がれる熱い液体に身体を震わすとクレセントは絶頂を迎えた。

「ん・・は・・・あん・・・」
ファーラントが男根を引き抜くとクレセントは切ない声を漏らす。
「背中痛くない？」
「うん・・・平気・・・」
そう応えるとクレセントは身体を起こした。まだ身体が熱くぼうっとしている。石床にはファーラントが自分のローブを敷いてくれていたので、背中は痛くなかった。
「良かった」
ファーラントは微笑んでクレセントの頬に軽く接吻た。
「あ・・・」
なんでもない事だがまだ自分が一糸纏わぬ姿なので、恥ずかしくなって意識してしまう。多分顔が赤くなっているだろう。

「さ、さっさと着替えないとねっ」
照れ隠しにそう言って脇に置いてある服を手に取ろうとしたら、その手をファーラントに掴まれた。
「え、あ、な、なに？」
驚いてファーラントの顔を見ると困ったような笑顔を浮かべている。
「ごめん、もう一回していい？」
「・・・・・・・・・はい？」
一瞬言っている意味が解らなかったが、ファーラントの顔から視線を下に落とすとどういうことかすぐに解った。
さっき出したばかりだというのにもうファーラントの男根は復活し上を向いていた。
「なっつ・・・今さっきしたばっかりでしょっ信じられないっ」
クレセントは座ったまま後ろに逃げる。
「いや・・・ご無沙汰だったから」
ファーラントはにじり寄る。
「ご無沙汰って・・・だって一週間前に・・・」
「本当は週三回が理想なんだけど・・・」
「そんなの無理っとにかくこんなところでいやっ・・・・あ」
気が付くと壁はすぐ背中だった。ファーラントは詰めよる。
「さっきはしたのに？」
「それはだって・・・」
一回ならいいかと思って許した事を今激しく後悔していた。
「二回するのも二回するのも一緒だから・・・ね？」
壁際まで追い詰めるとファーラントはクレセントの下腹部に手を伸ばし女陰を弄る。
「やっ・・・あっ・・・やめっ・・・」
くちゅ、という音がクレセントの耳にも届く。
「まだこんなに濡れてるし・・・」

「やだっ触んないでっ・・・はあ・・・ん」
指は花唇の中に潜り花芽を弄る。静まって来ていた身体にまた火が付く。
「クレセントのココも欲しいって言ってるけど」
指を蜜壷の中に沈める。
「ふぁっああんっ」
「こんなに締め付けてるんだから、欲しいんでしょ？」
指の出し入れを繰り返す。
「やっはっあっ・・・やあっ・・あ・・・」
ファーラントの指に翻弄されてクレセントは喘ぐ。
「ね・・・してもいい？」
「ひあ・・・うん・・・」
クレセントは頷くしかなくなっていた。

？

「じゃ上に乗って」
ファーラントは下に座るとクレセントを上に乗るように促した。
「自分がしたいのにずるい・・・」
そう言いながらもクレセントはファーラントの上に跨った。そして勃起している男根を軽く握ってしごく。
「うっ・・・」
ファーラントが呻くとクレセントは艶っぽく微笑み、更に指を動かす。
「ふふ・・・大きくなってビクビクしてる」
クレセントは楽しげにファーラントの男根を弄ぶ。普段だったら喜ぶ所だが、このまま手でイかされかねない。
「クレセント、ちょっとストップ・・・」
「ん？気持ちよくない？」
「いや・・・気持ち良いけどね。でも」
ファーラントは手を伸ばしクレセントの花陰を弄る。
「ふぅ・・・あん・・あ」
すぐにクレセントは反応し身を捩る。
「こんなにしてるのに俺だけイったら悪いからな」
「ん・・・」
クレセントは腰を浮かすと男根に手を添え花陰に導く。そしてゆっくりと腰を落として自分の中に受け入れた。
「はあ・・・んう・・・」
完全に腰を落とすと大きく息を吐き出す。
「あっ・・・すごい・・・奥に当たってる・・」
吐息混じりに呟く様に言うと腰を浮かし、抜ける寸前まで上げるとまた腰を落とした。
「あん・・・あっ・・・あっ・・・あっ」
リズムを刻んで上下運動を繰り返す。
その度に乳房が大きくたわむのをファーラントは鷲掴みにした。
「ふあっあんっ・・・」
固く屹立している先端を指で摘まんでみる。
「ひああんっ」
膣壁が収縮し、ファーラントの男根を締め付ける。
「いや・・・痛い・・」
「腰が休んでるけど？」
「だって・・・ああああんっ」
下からファーラントが突き上げる。
「ほら、続けて」
「う・・・んっ・・・は・・・。」
ファーラントの肩に手を置き、また腰を動かし始める。
「くぅっ・・・ああんっ」
亀頭が膣壁を擦り、腰を落とすと天井を突き上げる。

「あ・・・奥当たって・・・ふ・・うぁ・・・」
クレセントの瞳から涙が零れる。
「大丈夫？」
ファーラントが涙を拭うとクレセントは笑顔を見せる。
「うん・・・気持ちイイから」
そしてまた腰を動かす。
「んっ・・・はあ・・・あ・・・もうイきそっ・・・」
何かに追い立てられるかのように激しく腰を動かす。
その動きは男根にも伝わり刺激される。
「っクレセント・・・出すぞ」
「あ・・来て・・あっあああんっ」
クレセントが先に絶頂を迎え男根を締め付けると、
「くっ・・」
ファーラントもクレセントの中に吐精して果てた。

「もしもーしクレセントさーん」
背中からかけられる声を無視して、クレセントは歩く。
がその足取りは覚束無い。
よろける度に一因を作った後ろの魔術師に怒りがこみ上げる。
結局あの後、アレで最後とは行かずにもう一回する事になった。
そしてあんな事やそんな事をされた結果、足腰にキてしまったのだ。
当の本人はなぜかピンシャンしているので余計に腹が立つことこの上なく、先程から無視を決め込んでいるのである。
「怒ってますかー」
「すみませんでしたーもうしませーん」
「・・・」

距離をおいてかけられる声に余計に腹が立つ。
「あのねえっ」
クレセントが振り向いて一言、言ってやろうとした時、
『キュアブラムス』
呪文が放たれ、クレセントの疲労を回復させる、ついでに肩の傷も。
「な・・・」
ファーラントはにっこりと満面の笑みを浮かべている。
「どう？効き目ばっちりだろ？」
「ファーラント・・・」
クレセントはファーラントに歩み寄ると、
「やっぱりキュアブラムス使えたんじゃないっこの変態魔術師っ」
バシィンと良い音が昏き妄執の館に響き渡った。

終

Guest Comment

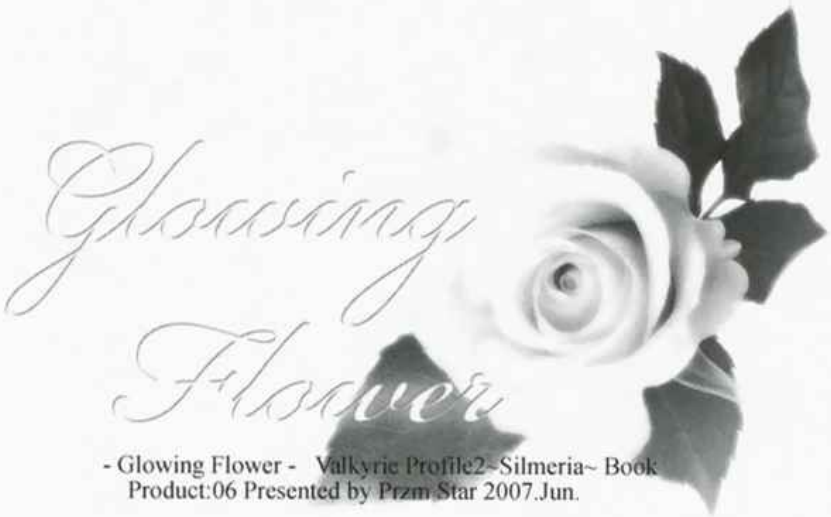
- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

今回もお招きいただきありがとうございました～。
カラーも小説もクレセント尽くしになってしまいました。

すみません好きなんですツンデレお嬢。
そして今回の小説のテーマは「M男攻め」だったはずなのですが・・・
微妙に黒いファーラントになってしまいました。
最後ひっぱたかれてますけどね（笑）
クレセントさんはにゃーにゃー言いながら押しに弱いといいなあと。
エーレン相手だと普段は従順でHはリードして、
ファーラント相手だと普段をリードしてHの時は従順だったりしてるとモエます。

Re:Comment From Przm Star

ゲスト百地さんです～いつも集中攻撃してすいませんｖつかもういかにPrzm StarにVP好きトモダチが居ないのかが。
以前から良く喫茶店とかで猥談トークしていたファーラント×クレセントですね！！VP2のエインフェリア系では唯一のメジャーカプだという<死>
吹っ切れたら怖いだろうねー怖いだろうねーでも仕返しは更に怖いだろうねと盛り上がったものです・・・が・・・ごちそう様でした（笑）そしてファーラントはライトニングボルトに限ります。<ナゾコダワリ>
いつもお忙しい中ホントにありがとうございます～！！



- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

シルメリアを…私の中に感じないの――

ディランもレザードも皆何処へ……？

さあな

消えちまったよ皆――

う…

ここは…？

私は何故この姿で…

ユラ…

不死者?!!

はい…

そんな…
確かにここには
不死者の気配どころか
何も無かった筈なのに…!!

剣よ…!!!

ポト…

!?

無駄ですよ
この世界は
神々のものとは
違う理で出来て
いるのですから

誰!?

はい

目的は貴女ではありませんが、彼女が現れるまで何もせずに待っていただくのも失礼
彼女に気に入っていただけるよう…余興を用意しておきましょう
!!!しまっ…!!!
この不死者…！創造が不完全なんだわ…！

!!!
なっ…
何処に…!!!
痴れ者がっ…
ズルッ
ズチュ
っあ…!?

ドロ…
シルエット
うっ!?
そんな…!?
神の力で組成
された鎧が…
それに…
粘液のついた
跡が
熱い…!!

媚薬…っ!?
そんな…!?
そんなもの神に効く筈が…!!
ドクン
ドクン
んっ!!
んく…ふ…

ひっ…!!!

やっ

やめ…

そこ、は
不浄な…!!!

あ!!!

んっ

いやっ…
ダメ…!!!

熱いのっ…
広が…るぅ…

はぁ…

ボタ…

ああっっ
!!!!

あ、あ、悪趣味な…っ
このような事、で
……!!!

私――が
堕ちるとで…
も…!!!

な…
何――
胸が、あつ…
!!! !?

えっ…
ひあああ!!!!

い…やあああっ
こんなあぁっ!!!
どうしてっ…

止まらな…いっ
こんな…!

ぴゃ

ぷ!

家畜みたいに、
絞られ…てぇえっっ!?

ビキッ
ビキッ

はーー
まー

べたん

だダメ…
もう…溶け
…て…しま…

はぁ…

もぉ…だめ…!!
はぁ
こんなの…クヴセに…なっちゃうぅぅっ♡
ひぁ
ぷしゅ
ぷしゅ
あぁ
絞ったらまた出るっ出ちゃうぅぅっっ♡
あ

はぁ、
お願い…
そっちばかり
しないで…
前も…
前もして
…え…
はぁ…
ここ…に…♡
おぁ
おぁ
あ
お●んっ欲しくて
…変になりそう
…なのぉっ…!!!
おやおや
久しぶりに
見てみれば
ずいぶんと
変わり果てた
ものですね

あ…
あああああっっ!!!
入ってる…
入ってるのぉ♡
私…
不死者に犯され…
自分で開いて…ぇ…
はッ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ

神なの・・に・・・・
ちゃ・・・ぁぁぁぁ
やれやれ物わかりの悪い女性ですね
貴女はこの世界ではもはや――

あの先が奴…
レザードの創造
した世界だ

神々の摂理も
通じなければ
時の概念すら無い

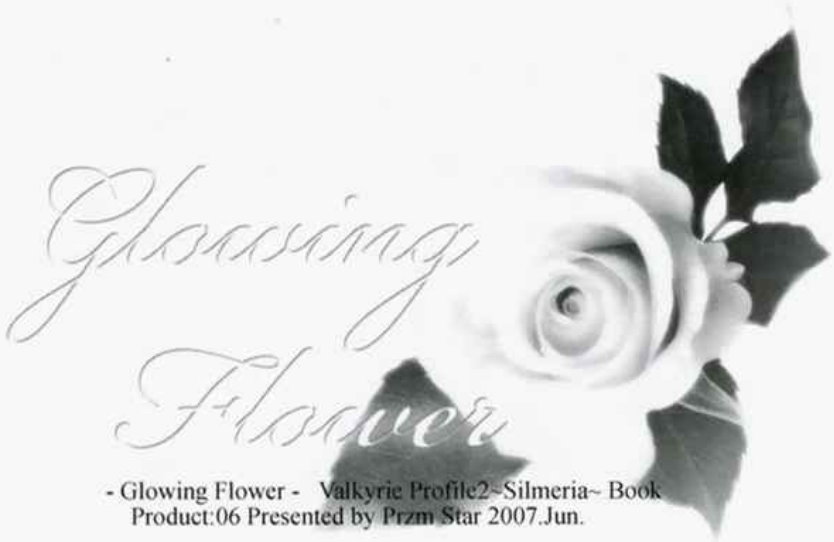
決して呑ま
れるな

この先では
我々ですらもはや…

無事でいてくれるかしら

シルメリア…

もはや神ではない



- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

普段の少女漫画崩れと違っていきなりマニアックネタでしたなとか作画面とか色々猛反省な部分もあるんですがもう・・・；；

まあエロまんがはまずエロくないとね！ハハハ！＜開き直り＞

次回色々がんばります・・・；；＜毎回言ってる気も＞

INFORMATION

Przm Star 2007.Midorimaru Kamishiro // QuanXing Information

WEB : http://przm.matrix.jp/
Imode : http://www.bea.hi-ho.ne.jp/~przm/i/
Email : pswebadmin@przm.matrix.jp

■　カミシロ緑マル(女性向)//光星(男性向)は2007年同人サークル『Przm Star』もしくは、『プリズムスクエア』にて、

・WJ系　聖闘士星矢(冥闘士メイン)　テニスの王子様　D.Gray-man　封神演義　アイシールド21(希望)

・ゲーム系　VP2　聖剣伝説3　式神の城　18禁ゲーム　旋光の輪舞(希望)　男性向メイン

・その他　ナースウィッチ小麦ちゃん　まじかるて　など

…などなど、女性向から男性向まで幅広く、好きなジャンルで好きな方向性で好きな事だけ気の向くままに活動中です。
モットーは『同人 is Freedom』。(犬井)
2006.10〜当面はValkyrie Profile2メインでの活動になりそうです…?

■　イベントは関東圏のオンリーイベントやComicCity、サンクリ、コミキャスなど、申込忘れしない限り参加中。
イベント限定本や無料配布グッズ等もたまにありますので是非よろしく〜

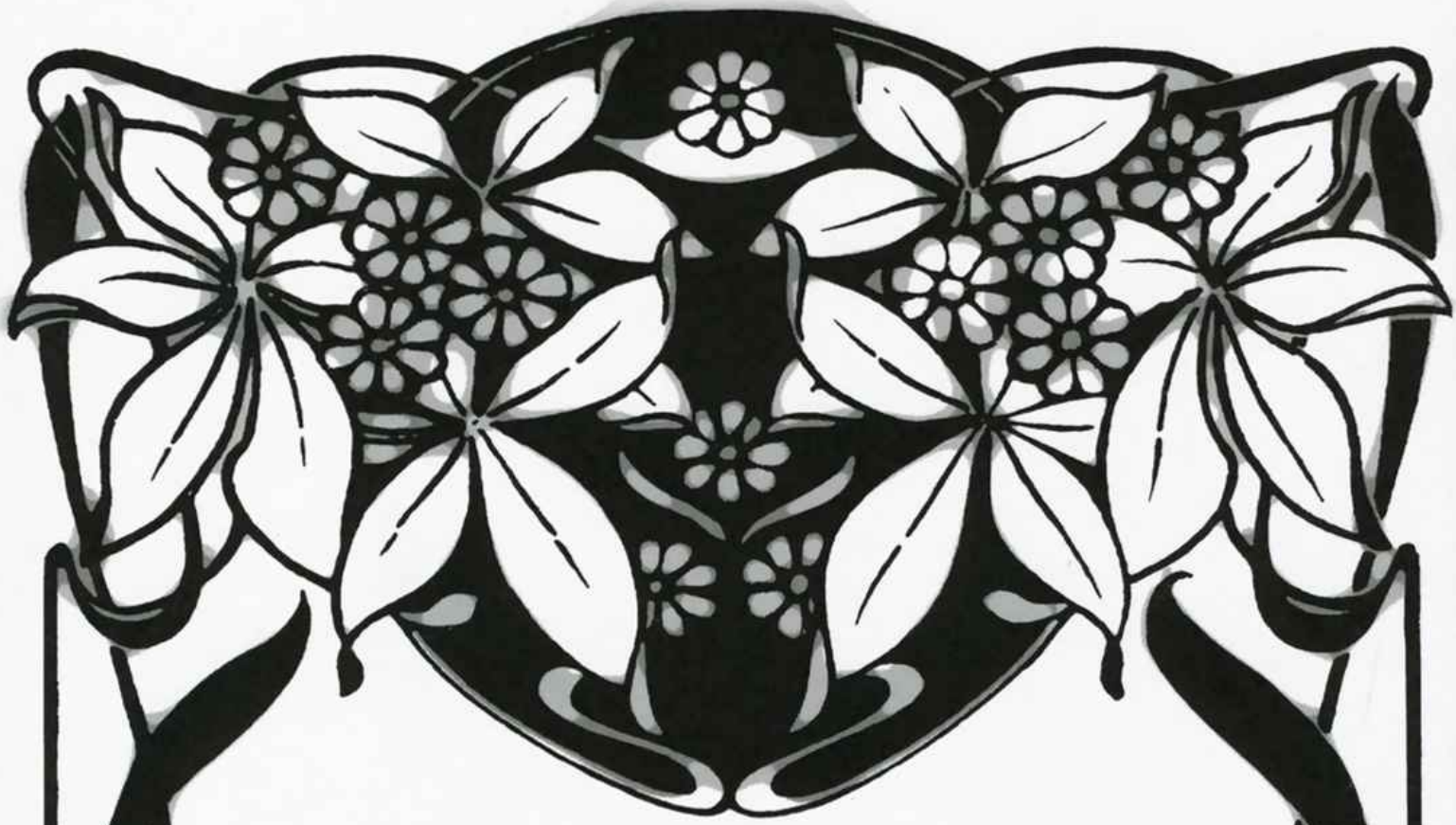
■　また、D.Gray-man、テニスの王子様聖闘士星矢、美少女系等の商業誌アンソロジーなどにも、光星緑マルそれぞれでお邪魔させて頂いております。
　描きおろしも多数ありますので夜露死苦ﾃﾞｨｽ。

■　PCの美少女ゲームなどの原画や、イラスト、オリジナル漫画などのお仕事もさせて頂いております。
覇王、Lぱれ、F&C等のブランドで、原画から裏方まで色々やってますので詳細はHPなどで随時。

■　その他流動的情報やPrzm Star激動のニッキ、日々の欲望たれながしエロ絵<…>他、イラストやWebコミック等HPで公開してます〜れっつアクセス。

■　同人誌やお仕事のご感想、萌え話、リクなど大歓迎です!メールにてどぞ!

※ 事前連絡の無い添付画像付メールは受信できない場合があります。
携帯電話からのメールの場合PCからのメールを受信拒否にしてある場合お返事できません。



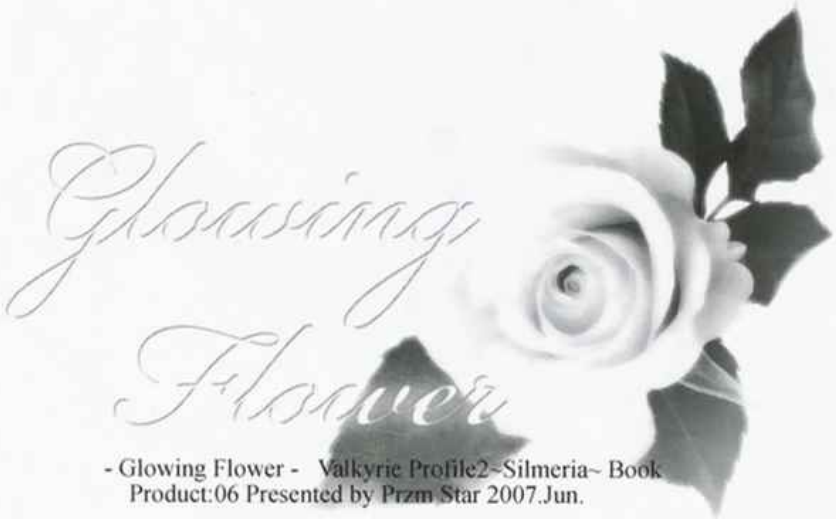
後書きでーす。じ、時間の割にはまあまあやれたんでわないかな...と思っときます：ボリュームだけなら・・・

色々あって同人というもの改めて考えていたりしたのですが、結局ウチはウチで、自分のやりたい事をやりたいようにできる範囲で好きなだけやって、OKという方にだけ見て貰えばいいやというスタイルで行こうと思います。
美少女だろーがyaoiだろーがパロディだろうがオリジナルだろうが、事同人というものに於いては好きと思う事ややりたい事に先入観や偏見は持ちたくないので。
装丁や作画の形態も含め、自分が良いという方向でやっちゃうけどいいよね？答えは聞いてない。＜@龍＞

まあそんなカンヂでSatisfactionまっしぐらではありますが、また気が向かれましたら覗いてみてやって下さい！

2007/06/某日　光星。

GLOWING FLOWER
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.



- Glowing Flower - Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book
Product:06 Presented by Przm Star 2007.Jun.

初版：2007.06.17
発行：Przm Star/プリズムスクエア
印刷：ねこのしっぽ様
連絡先：http://przm.matrix.jp/
Email:pswebadmin@przm.matrix.jp

無断転載・無断複製 またはそれに準ずる
行為は禁止させて頂きます

Special Thanks!
・はるきち様
カラー人物メイン彩色
・百地ながと様
ゲスト
・DAオブジョイトイ様
その他おてつだい。

2007.夏コミは
1日目 あ-01a Przm Star です！
当日限定無料配布等ありますので是非遊びに
きてやってくださいね～！

- Glowingr Flower -
Valkyrie Profile2~Silmeria~ Book Product:06
Presented by Przm Star 2007.Jun.